高齢者施設の QOL が高い製品開発

－第 2 報－

Product development study of QOL for nursing home
-Part2-

工藤洋司、濱田　圭、伊藤　健

高齢化が進む日本では 2060 年には人口の４割が高齢者になるとの見通し（内閣府調べ）が出ており、福祉施設や高齢者向けビジネスの更なる拡大が予想される。その一方で要介護者向け以外のビジネス、例えば後期高齢者に①普段の生活を維持・推進すること、②やりたいことや生きがいを作ってもらうこと、といったケアをするビジネスは少なく、後期高齢者のＱＯＬ（生活の質）に関しては課題が多いと言われている。そこで、高齢者福祉施設向けの、ＱＯＬ向上を目的とした製品（教材や設備）とプログラムの開発を目指す。

具体的には、要介護者以外の後期高齢者の「健康・生きがい」に着目した高齢者のための「ＱＯＬ向上プログラム」の開発を高齢者施設従事者等と共に取り組み、同プログラムを基に本県の資源を生かした「福祉介護製品」を開発する。

28年度は、高齢者施設やリハビリテーション技師のアドバイスの下、参画企業と福祉用具の施策を行い商品化へ向けた検討を行った。

